

HEIKO SICK

北九州市



8

海保 tel. 118

# 目次

## ザ・関門海峡。

6 関門海峡全図  
 絵=牧野伊三夫

8 海峡の仕事人。  
 写真=長野陽一 文=つるやももこ  
 絵=牧野伊三夫

18 熱闘! 海峡合戦史  
 文=大谷道子 絵=牧野伊三夫

26 海峡で暮らす人。  
 写真=長野陽一 文=つるやももこ

34 海峡を渡る道。  
 文=つるやももこ  
 写真提供=九州鉄道記念館  
 資料提供=北九州イノベーションギャラリー

39 アラウンド・ザ 関門海峡

40 門司の出光さん。  
 文=大谷道子 絵=牧野伊三夫  
 写真提供=出光美術館(門司)

「葉のうえ」25号  
 題字=牧野伊三夫  
 写真=長野陽一  
 アートディレクション=有山達也  
 編集=つるやももこ  
 校正=齋藤晋  
 ©北九州市 2016  
 本誌記事・写真・イラストレーションの  
 無断転載を禁じます。

関門海峡と人の暮らしはあまりにも近い。門司港駅を降りればすぐ目の前に海が見え、そしてビルのようにそびえ立つ強大な船が、当たり前のように行き過ぎる。距離感がつかめなくなる不思議な光景だ。



# ベス BESS 展示場へ行こう!!

丸い家、四角い家、三角屋根の家、シブい家…個性たっぷりの木の家や楽しいインテリア、気持ちいいウッドデッキや庭。BESS展示場には、「こんな風に暮らしたら、楽しそう!」のヒントがいっぱい。今度のお休みは、BESS北九州展示場に出かけてみては?



### 自宅として楽しむログハウス 個性あふれる木の家の内部に潜入!

ログハウス=山小屋の別荘と思っている人も多いのでは?実際は、9割の人が自宅として住んでいます。木のぬくもりいっぱいの家、街の中に、今どんどん増えています。

どんな365日になるんだろう?

◎あきつログハウスは、ウッドデッキの代わりに、庭の楽しみを提案しています。

### 読書? BBQ? どう使う? どの家にもウッドデッキが!

すべての家にキッチンがあるように、すべての家にウッドデッキが! “大空の下のリビング”を、暮らしに欠かせないアイテムと考案している BESS。この空間、どう使うかは住む人次第?

晴れた日が 楽しみにする空間!

◎あきつログハウスは、ウッドデッキの代わりに、庭の楽しみを提案しています。

### 理屈抜きに、五感で感じてみて! 吹き抜け・天窓のある空間

同じ㎡でも、広く明るく感じるのなぜだろう? 心がおだやかになるのは、どうしてだろう? BESSのキーマイテム・吹き抜けや天窓の気持ちよさはカラダで体感できないとわからない!

何だか 気持ちいいなあ…

### 「カッコいいね」「なんだこれ?」 楽しい暮らしが想像できるインテリア!

そこに住んでいる人の顔が見えてくるような、凝ったインテリアも面白い! 「家を見に来たつもりが、小物や家具に入っちゃいました!」という人もしばしば。

ひとつひとつに すごいこだわり!

### 映画の世界だけじゃなかった! やっぱり羨ましい「薪ストーブ」

ログハウスと言えばやっぱりこれです。薪の炎を見つめていると人間の気持ちは穏やかになるのだとか。BESSの住人の半分以上の人が、薪ストーブを設置するというデータが。

わが家にも絶対ほしい

◎ストーブ一台でハイブリッド車5台分! CO<sub>2</sub>削減効果もあるエコな暖房として注目されています。

### このまんま住めるんだあ。標準プランで実際の暮らしを体感

豪華爛漫なモデルハウスに憧れて家を建て「展示場は良かったけれど…」という気持ちになるのは何とも…。見学できる建物は、等身大の標準プランだから、実際に住んだときの感覚がわかりやすい!

住み心地が 実際にわかる!

BESS北九州展示場は、「暮らしを楽しむ家づくり」のお手伝いをしています。自宅向けログハウスをはじめ、個性的な木の家7棟をご見学頂けます。

## BESS北九州展示場

Phone:093-291-1700

<http://kitakyushu.bess.jp/> [BESS北九州] 検索

※今、国道3号線改良工事の為、一方通行側道への進入規制があります。公式HP地図・アクセスの詳細ルートもご参照ください。

〒811-4331 福岡県遠賀郡遠賀町別府3713-3  
 ●営業時間/AM10:00~PM6:00  
 ●定休日/水曜・木曜(祝日は営業)  
 ●交通/車:国道3号線遠賀バイパス側道沿い黒崎I.C.より約20分・古賀I.C.より約40分



株式会社BESS福岡



## BESS安心総合保証

BESSなら建てる前も建てた後も安心。建て替え、住み替え、用地転換、住宅ローン等、お気軽にご相談ください。

エスカラー運動型 従務工事 完成保証  
 50年保証 システム  
 マチナフサ サボト態勢

万が一のことがあっても、保険法人が建物の完成まで保証します。

最長50年まで、免責なしで住宅瑕疵を保証します。

定期点検、24時間電話受付など建後のサポートも万全です。

この日、日本のクルーズ船「にっぽん丸」が関門海峡ミュージアム前の門司港・西海岸に寄港。全長 166.6メートル、全幅 24メートル、総トン数 2万 2472 トンの大きなお客様をたくさんの方がお出迎え。

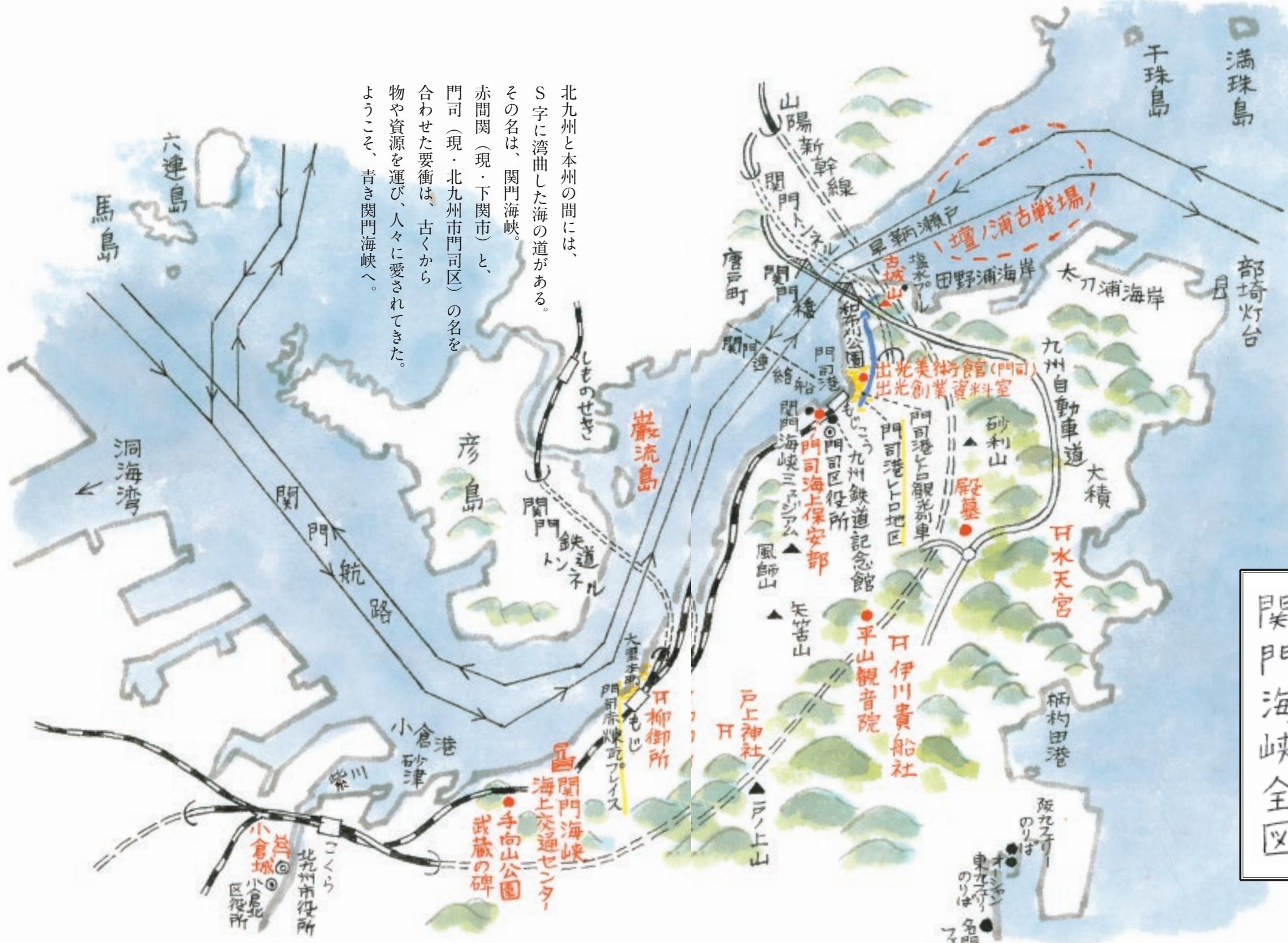


下関市側、火ノ山の展望台から門司港を眺める。湾岸を港湾整備で埋め立てているからか、海と陸地の境目は直線が目立つ。街の背後には山並みが迫る。関門橋の向こうにひと際大きく見えるのは風師山。



# ザ・関門海峡

関門海峡全図



北九州と本州の間には、  
S字に湾曲した海の道がある。  
その名は、関門海峡。  
赤間関（現・下関市）と、  
門司（現・北九州市門司区）の名を  
合わせた要衝は、古くから  
物や資源を運び、人々に愛されてきた。  
ようこそ、青き関門海峡へ。



関門マーチスでは、航行中の船に対して海峡の状況や気象情報をリアルタイムで提供する。国際VHFのほか、ラジオ、テレホンサービス、ホームページ、電光掲示板とその方法は多岐にわたる。詳しくは次ページにて。



# 海峡の仕事人

写真 長野陽  
文 三つやももこ  
絵 牧野伊三夫

関門海峡。〃関は下関（旧・赤間関）、〃門は門司、海を隔てて向かい合う地名を冠した美しい海峡である。歴史を辿れば、穴門・馬関・赤間関・下関海峡とさまざまに呼び名が変わっており、関門海峡が広まったのは明治の終わり頃から大正に入ってから。仮に、今なおその名が下関海峡のままでいたら……。考えるだけで北九州市民の胸はざわつくそうだ。それだけ、この海峡は市民、ことに門司港に住む人々に愛されている。

東は瀬戸内海・周防灘、西は日本海・響灘に通ずる海峡（航路）は、部埼灯台沖から六連島を結ぶ約15マイル（約27キロメートル）。S字に屈曲して幅が狭く、潮の流れが速くて有名だ。門司と下関の最狭部は、ちょうど関門橋の真下、「早瀬瀬戸」と呼ばれる海域で、航路幅は500メートルほどしかない。東西に流れる潮流は、干潮時は東方向、満潮時には西方向へ、日に平均4回流れを変え、最大で10ノット（時速約19キロメートル）に達する。

「まさに通航する船にとっては操船の難所、関門なんですね。」すると、それには答えることなく、「関門海峡海上

交通センター」の整備課長を務める武井光治朗さんは説明を続ける。「関門海峡は全体が港則法に基づく港（関門港）となっていて、8つの航路が設定されています。その1つ、関門港を貫通する「関門航路」は、韓国、中国と日本（瀬戸内海等）を結ぶ各国の貨物船や大型客船が行き来するだけでなく、海峡兩岸の港に多くの船舶が入りしています。早瀬瀬戸を通過する船舶は日に平均500隻。潮流が速い時に潮に逆らって進む場合は、その時の潮流プラス4ノット以上の速力を出せない船は通ることができないんですよ。」海峡航路をせわしなく通過する船舶交通の効率化と安全を24時間体制で見守る目的で、1989（平成元）年に設置された同センターは、通称「関門マーチス」という呼び名で親しまれている。海峡の管制塔は、東西がよく見渡せる大瀬戸の岸、対岸に彦島の突端に臨み建っている。我々はその心臓部である運用室にお邪魔しているのだった。

海峡に面した窓からは青い海が見渡せる。その窓辺に並ぶ6台のレーダー監視卓に管制官が着き、頻繁に無線でやり取りをしていた。関門マーチスは、国際VHF（船舶無線）で海峡の情報を流しており、海峡内に設けられた位置通報ラインを通過した大型船と交信する。早瀬瀬戸を通過する大型船等（総トン数1万トン、油送船は3000トン）の動静は、早瀬信号所の電光表示により情報提供されている。ただでも狭い海峡に多くの航路船が押し寄せ、その間を縫うように遊覧船や漁船、個人のボートも行き交っているのだ。



数エリアに分けて表示される管制官のモニターには、海峡航路の様子が常に映し出されている。このAIS装置の導入により、航行する大型船がどこを目指しどんなルートを通るか、また港内での係留の有無などが明確になり、航路の安全が高まった。

メッセージマーカー!

明治5年に初点灯。現存する九州最古の灯台は海拔39メートルで、関門海峡の最東に立つ。海峡の西に立つ六連島灯台、船舶航行の目安となる陸地に設置する導灯（関門海峡内には5基設置）と共に、通行困難な海峡航路の道しるべとなる。



へさき 部埼灯台

潮流の状況を知らせる信号所は、ほかに台場鼻・部埼と計3カ所に設置。流向、流速、流速の傾向（遅速）を電光掲示板で情報提供している。関門橋のたもと（下関側）、早瀬瀬戸信号所では総トン数1万トン以上の船の航行の有無と進路を知らせる。



潮流信号所（火ノ山下）



関門航路には多数の灯浮標（海に浮く標識・ブイ）が設置されている。関門航路を西から東に向かうと北九州市側は赤色のブイ（右舷標識）、下関側は緑色のブイ（左舷標識）となる。これは国際的に決まっているので、外国船も航路を安全に航行することができる。

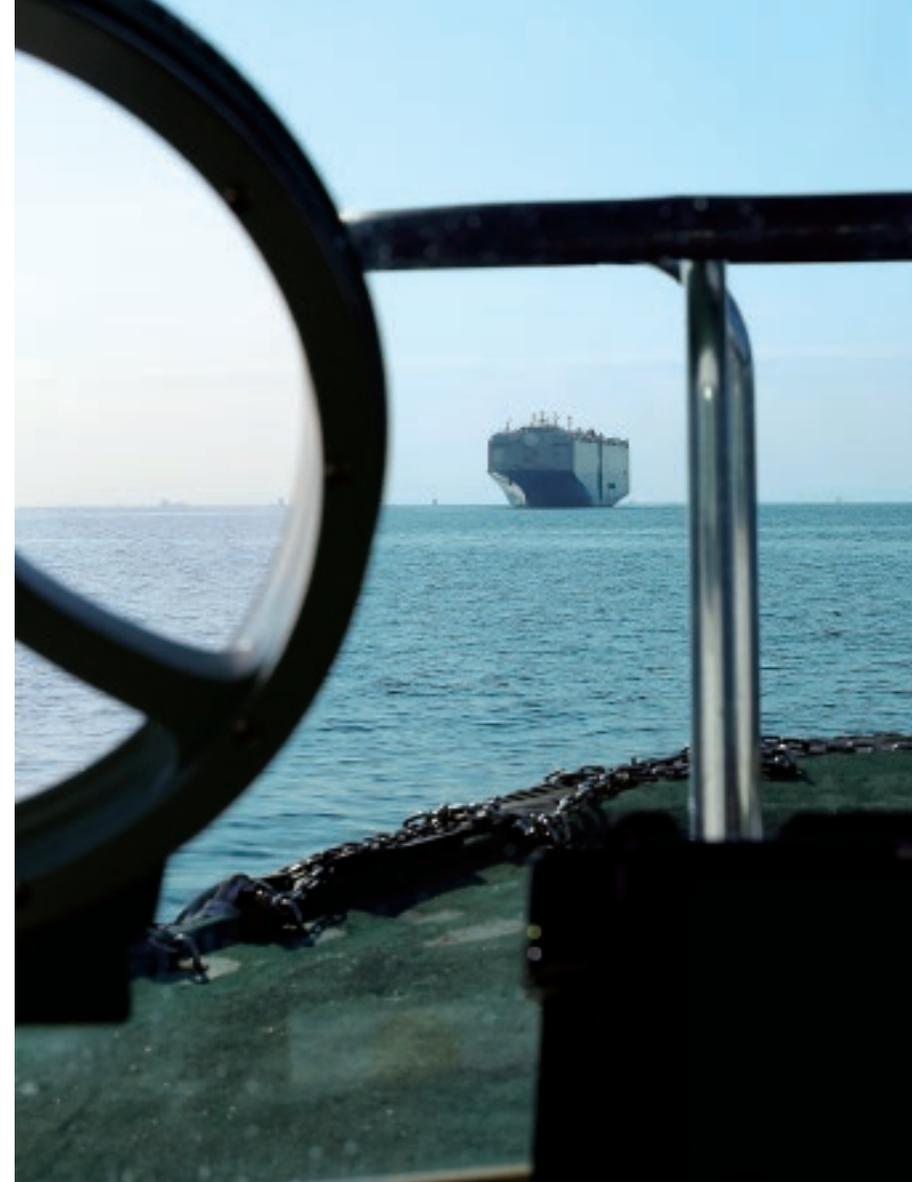


とうふひょう 灯浮標

関門航路の西側から見える白亜のランドマークタワー。国際VHFで海峡の情報を24時間発信している。海へ向いた2台の巨大な電光掲示板が目印だったが、惜しくも今年9月末で27年間のお役目を終えた。



海上交通センター（関門マーチス）



さつきまでぼんやりと眺めていた海峡に、秩序を保つために日夜働く人の存在を知り頭が下がる。ちなみに、海峡の大型船の動静はレーダーとAIS（自動船舶識別装置）で全て把握しているとのこと、画面上の船をクリックすれば、国籍、目的地、総トン数、全長、速力などが把握できる仕組みだ。管制室のモニターは海峡を全てお見通しな

外の船舶に乗船し、船長を補助しながら安全に効率よく航行・船舶を導く専門家である。関門海峡を通過する大型船からの依頼は、貨物、客船、LNG、タンカーなどさまざまで、『関門水先区水先人会』所属の37名の水先人が、年中無休24時間体制で対応する。内田さんはこの仕事に就いて15年が経つが、今までに4000隻以上もの国内外の船

のである。再び管制室の窓の外へ目をやると、今まで意識していなかった航路線が見えてくる。大きなコンテナ船が一定距離を保ちながら列を作って通過しているところだった。目の前にあらゆる国の人々が行き来している。航路は、荷物と人と文化が行き交う海の道なのだ。「船の中は外国。船は文化そのものだからね」翌朝、海峡を眺めながら昨日思っていたことと同じ言葉を「水先人」の内田研一さんから聞いた。水先人とは古風で頼もしい名前だ。パイロットとも呼ばれ、多くの船が行き交う港や海峡で、その環境を把握しきれない内



総トン数約4万8000トン、全長180メートルの自動車専用船へ、6メートルほどの縄梯子を伝って乗り込む。水先人は、帽子、ワイシャツ(冬はブレザー)とスラックス姿が定番だが、これは乗船する船へ礼儀を尽くすという慣習から。

の航行補助をし、多国籍の船乗りたちとコミュニケーションを交わしてきた。水先人は通門証、言うなれば海峡のパスポートを持って船内へ入る。船長の操船を助けるのが最重要任務だが、その合間、合間に交わす言葉やもてなしで、そのお国柄を知ることができると教えてくれた。

「何か飲みますか？」と聞かれたら、必ずカップオブコーヒーと答えます。コーヒーはいろんな国柄が出ますね。アメリカ船に乗った時、美味しいのが出てきました。(イグゼイス スターバックス?)と聞きましたら、イエスと専門のコーヒーメーカーが搭載されてるんです。ある韓国船ではコーヒーの代わりに栄養ドリンク。台湾船では花茶、そう、きれいなお茶です」。船乗りたちが故郷でどんな暮らしをし何を食べているのか。そんなことに興味がある。そのお返しというわけではないが、内田さんは安全航行の合間に、関門海峡の案内も買って出る。「ユーキャンシー 巖流島。デイス イズ ベリー ヒストリカル プレイス ……なんて。たいいてい喜んでくれます」と、笑う。船乗りになりたての40年前、街にいる外国人をお茶に誘い、独学で習得した英会話は、ブロークンな九州弁なまりだが、目的を明確に伝えられる自負がある。海上での判断と指示は瞬時にできなければ危険を伴う。何気ない会話で親交を深めておけば、いざという場合もスムーズにいく。

自らも、かつて石油タンカー船の船員となり、30代半ばから実に15年にもわたり船長として重い舵を握った内田さんは、船乗りの仕事の大変さ辛さ、孤独やプレッシャーな

バナマハットがお似合いの紳士、内田さん。たすき掛けしたカバンには、潮汐表、双眼鏡、無線やAIS受信機など仕事道具が詰まっている。昼夜問わずの勤務のため健康が第一。水先人には、年2回の人間ドックが義務付けられている。「自分の生活を律することも仕事のうちです」

ど全てを知り尽くしているに違いない。長旅を経てこの海峡でたまたま出会った縁なのだから、船と乗組員全ての安全を預かるという責務を負うのはもちろんのこと、彼らにつかの間の息抜きを提供したい。冗談めかして話を続ける内田さんだが、その根っこに仕事人としての誇りを感じた。

この日最初の水先は、海峡の東端、部埼灯台沖から乗船し、西に抜けて六連島まで。沖合まではパイロットボートと呼ばれる小型船で移動する。目的の船と海上で合流することをランデヴーと言うと教えられ、なんともロマンチックと一瞬うっとりするも現実はいやいや、なかなかの迫力。急潮流を疾走する壁のような巨大船に、小さなパイロットボートは全速力で突進して行き、見事にビタリと脇に付け、並走する。上から下ろされた繩梯子へ迷いなく乗り移った内田さんは、あっという間に貨物船内へ消えた。

水先人には1級から3級までの等級があるが、今まで1級試験を受けるためには、3000トン以上の船舶で遠海以遠の船長経験が2年以上必要であった。先ごろ資格制度が変わり、希望して一定の研修期間を経て試験に合格すれば、3級の場合、早ければ20代で仕事を始めることが可能になった。内田さんは関門水先区の水先人会の会長として、後継者を育てることがこれからの自分の仕事だと思っている。現在67歳。水先人の引退まではまだ7年も残されている。

海峡を眺めれば、いつも船が見える。船が行き交うかぎりそこに、働く人々がいる。人に出会って、遠景の海峡を傍に感じる事ができた。

# 熱闘！海峡合戦史

文：大谷道子  
絵：牧野伊三夫

人生の関門を、あなたはいくつくぐってききましたか？

すみません、泣かせるつもりじゃありませんでした。しかし関門、それは、試練と真つ向から対峙する場所。そしてそれは、ときに歴史上にも出現する。古代から近代までの日本史を遡れば、歴史の流れを変える関門となった大決戦が幾度か起こっているが、その舞台のうちの実に3つが、北九州市と山口県下関市の間、関門海峡で戦われたのである。

平安時代に終止符を打った源平合戦クライマックスである「壇ノ浦の戦い」。江戸時代初期に行われた、剣豪・宮本武蔵と佐々木小次郎の対決「巖流島の決闘」。そして幕末、長州軍と小倉藩が死力を尽くして戦った「長州征討」。日本中を見渡しても、これほど戦いの名場面が集まる場所は他にないではないか。しかも、関門という象徴的な名を持って！

なぜ関門海峡は、時代に選ばれたのか？ そのその場所で、古の人々はいかに生き、死んでいったのか？ 地元で日々、研究を重ねる史家たちを訪ね、この夏、教えを乞うた。

## 「壇ノ浦の戦い」は山口の歴史？ ちよつと待ってください

まずは、関門海峡史上最初の大事件といえ、源平合戦のハイライトである壇ノ浦の戦い。平家と源氏、ふたつの武家勢力の政権をめぐる激突は、関東、中部、関西へと、拡大しながら西へ展開。舞台は瀬戸内へ移り、1184（寿永3）年に一ノ谷、翌1185（元暦2）年2月には屋島へと転戦を重ねた平家一門は、ついに同年、壇ノ浦で源氏を迎え撃つ。「そもそも、壇ノ浦の戦いって、どこかの街の出来事だと思われませんか？」

そう尋ねたのは、門司生まれ門司育ちの郷土史愛好家、内山昌子さん。注がれるまっすぐな視線から、つい目を逸らしそうになる。

すみません……何となく、下関（山口）の歴史だと思っていました！

毎年、ニュースで報じられる赤間神宮でのきらびやかな先帝祭（安徳天皇を弔い平家一門を偲ぶ。5月3日開催）の印象。それに加えて、数年前の個人的な体験がダメ押しになっている。かつて下関のみもすそ川公園（源義経、平知盛が激突する場面の銅像あり）を訪れた際、観光ボランティアが平家の最期を哀切に語る紙芝居を見たのだが、ボランティア氏が発した「滅びた平家の歴史を語り継ぐ、敗者にも優しい山口県でございます」のひと言が、耳に焼きついているのだ。

「そうですか……（嘆息）。確かに、下関には壇ノ浦という地名があるんですが、

実際に戦いが行われたのは関門海峡の上。門司側では、壇ノ浦の合戦のことを『田野浦沖海戦』と呼ぶ史家もいるんですよ」と、内山さんは語り出した。

実際、源平合戦、とくに平家と門司の縁は深かった。合戦の2年前には、門司の大里に安徳天皇を迎える柳御所が造営され、付近には一行が用水に使ったという風呂の井戸も現存。また、平家きつての猛将・平知盛は、本陣こそ下関側の彦島に置いたものの、古城山に門司城（和布刈公園内に城跡あり）を築いている。

「音でお気づきでしょうが、門司の大里は、もとは『内裏』。江戸時代まではそう書かれていますし、付近の『的場』『弓場』という地名からしても、防衛体制をしっかりと整えていたことが伺えます」

山口側の小島、満珠、干珠に陣を敷いた義経軍。田野浦に集結した平家の水軍。両軍が関門海峡で激突した決戦の日、午前と午後で変化した潮の流れが勝敗を左右したというのは、あまりにも有名な逸話だ。奮闘空しく滅んだ平家。そして、勝者にはもちろん、敗者にも、その後の歴史が存在する。



伊川の貴船社に伝わる木像。幼い帝はあどけなくも貴く、二位の尼は凛として、宗盛の表情は、どこか泣いているようにも見える。安徳帝と宗盛を祭神とする戸上神社にも、ほぼ同様の木像がご神像として祀られている。



武蔵 VS 小次郎といえばこれ、と誰もが思い浮かべる華麗な決闘シーン。数々の劇中で繰り広げられたあれは何だったの？と問うても、海峡の波は何も答えてはくれません。ちなみに「巖流」は武蔵と戦った相手（小次郎？）の名で、負けた方の名がついた「敗者の島」。一応、住所は山口県です。

「門司には平家の落人たちが暮らした隠れ里と伝わる場所がいくつかありますが、伊川いかわという集落では、1月23日に、入水した安徳帝を偲んで一夜を明かす祭りが行われているんです。800年経った今も子孫の方々が受け継いでいると聞いたときは、感動で鳥肌が立ちました」

その場所に、祭りとともに受け継がれてきた小さな3体の木像がある。安徳帝、その祖母である二位の尼（平清盛の妻、安徳帝を抱いて入水）、滅亡時の総大将であった平宗盛（知盛の兄。合戦後、捕縛され息子とともに斬首）の像。歴史の大海の中で、小さな人形を守り、御霊を慰める心の伝承が行われたこと。それは、門司側が世紀の決戦の当事者であったこととの、確かな証なのだ。

### 決闘はあってもなくても 「巖流島」はそこにある

続いての関門決戦第2ラウンドは、巖流島の決闘。巖流島は、壇ノ浦の古戰場から西にやや下った、下関寄りに浮かぶ小島で、船の形に似ていることから、も

とは船島ふねしまと呼ばれていた。ここで激突したのが、宮本武蔵と佐々木小次郎。吉川英治の傑作剣豪小説『宮本武蔵』以降、ドラマでも漫画でも大人気を博している、時代もの屈指の人気コンテンツだ。

関門の急流（でもないか）を背景に、野性味溢れる武蔵と貴公子然とした小次郎が木刀対真剣で闘う。否が応でも盛り上がるのではないかと、思いきや『北九州市立いのちのたび博物館』学芸員で歴史担当係長の日比野利信さん、渋い表情である。もしかして武蔵、お嫌いですか？

「源平合戦、幕末の出来事と比べると、巖流島の決闘は、並べて論じる必然性がある出来事ではないと思うのです」

ボキッ（心の木刀が折れる音）。しかし、確かに巖流島の決闘については異説が多い。美青年が演じるのがデフォルトの小次郎は、実はおじいさんだったとか、一対一の決闘のはずが、武蔵はこっそり弟子を伴っていて負けた小次郎をさらにボコボコにしたとか、そもそも決闘自体が本当にあったのかという疑問まで呈されている。それもこれも、原因は、確たる史実が残っていないから。

「小次郎については、いつどこで生まれたかすら定まっていない。後の世に創作された物語の部分をそぎ落とした結果、何が残るのかという……。ただ、その時代に武蔵が小倉にいた背景となる事実には、日本史にとっても北九州の歴史にとっても、たいへん重要です」

武蔵と小倉の縁を繋いだのは、彼の養子・宮本伊織の存在だった。播磨明石藩主であった譜代大名、小笠原忠真ただまねの家臣となっていた伊織は、忠真の豊前小倉藩への移封（国替え）に伴って小倉へ来る。それに、武蔵が同行したのだ。のちに武蔵は伊織とともに、九州で起こった日本史上最大の一揆「島原の乱」討伐に参戦していることが、記録に残っている。

「関ヶ原の後、まだ内政が安定していない時期に、長州藩の毛利氏や薩摩藩の島津氏を押しさえ西国を治めるため、九州総目付という役割で小笠原家が小倉に入る。この時代、武蔵にとって小倉が拠点であったことは、間違いないでしょう」

決闘については、のちの世の人たちが剣豪としての宮本武蔵を顕彰しようとして語り継いだ話であり、疑わしい点多

々……ううむ。しかし「有名になっていることには意味がある」と日比野さん。歴史は過去の人だけでなく、今を生きる人々によっても作られるものなのだ。

「武蔵の存在を大事に思う人たちがいて、その人たちが作った物語があり、それをベースに小説家が作品を書いてヒットした。史実としてありえない、小次郎なんかいなかったと切って捨てるのではなく、実在していたかどうかを超えて、関門海峡といえは巖流島の決闘だと広く受け入れられていることもまた、ひとつの歴史です。史実は大事ですが、要はそれを踏まえたくらうので、トータルでこの街のことをどう語っていくか」

### 小倉幕府軍 VS 長州藩 維新は海峡でも起こっていた！

そして、トータルで街を語るうえで欠かせない、というか、その解釈が大きく分かれるのが、関門の幕末史である。

長州藩がイギリス、フランスなどの外国艦隊と戦った下関戦争（1863～64年）を皮切りに、海峡は再び動乱の舞台

となる。続いて起こった幕府の第一次長州征討（64年）、そして、長州藩が倒幕に転じてからの第二次長州征討（66年）では、小倉藩は幕府軍の先鋒として、維新の勢力と対峙することになるのだ。

「外国相手の攘夷戦のときはほとんど傍観していて、そのことを長州藩側に責められた小倉藩ですが、いざ戦となったときに小笠原家に蘇ったのが、譜代大名であり、九州総目付であったという江戸時代初期の意識。二百数十年間、普段はとくに考えていなかったとしても、いざ事が起こって戦時体制になれば、自分たちは西国支配の拠点として幕府に違わされたのだという由緒に立ち戻ったということは、あったでしょうね。維新は、別に京都だけで起こったわけじゃない。外国の脅威が迫るのに加え、内戦の危機があった幕末、その2度とも、長州藩と小倉藩が、朝廷と幕府の代理戦争のようなかたちで最前線にいたというのは、やはりこの地がいかに重要で象徴的な場所だったかということだと思います」

倒幕対佐幕の戦いがこの地で燃え上がったのは、宿命か。しかし、外国と戦

い、軍備の面でも士気の面でも鍛えられた長州藩は、小倉藩の軍勢を圧倒。縁戚筋である熊本藩の加勢もあって一時は優勢に戦うものの、かつて平家の船団が陣取った田野浦、大里は焼かれ、長州藩の圧倒的軍勢は小倉口へと迫る。

熊本藩などが撤退し、あろうことか、幕府側の小倉口総督であった老中・小笠原長行（小倉の小笠原家と先祖は同じくするものの、この時代にはほとんど他家）は職を放棄して戦線を離脱。孤立無援で取り残された小倉藩は、実は前年に当主の小笠原忠幹が病没しており、後継はまだ5歳という幼年だった。進退窮まって選択したのが、城を焼いての撤退策。幕末北九州史における「黒歴史」だ。

「ですが、頑張ったのはむしろ、城を焼いた後。そのシンボルが、大将の島村志津摩です。幼い当主と未亡人を熊本に逃がした後、山中でゲリラ戦をしながら戦い続けた。幕末については何となく激しいドラマの末に勝ち組になった長州藩に小倉藩が負けました、ということになってしまいうんですが、戦い抜いた島村の姿は逆に『最後まで幕府に忠節を尽く

した小倉藩』という物語の象徴として、後世に伝わっているわけです」

物語。そう、このキーワード抜きには、歴史は語れないのだということが、海峡をめぐる攻防を振り返るとよくわかる。勝った側には勝った側の、負けた側には負けた側の史観があり、歴史解釈がある。そして、巖流島の決闘についての日比野さんの言を借りれば、どちらも語り継がれ、受け入れられている限り、ひとつの歴史であることに間違いはないのだろう。

### 語り継がれる物語は違っても それぞれに、いいのです

取材を終え、あらためて和布刈公園の上から関門海峡を眺めた。この下に平家の船団が陣取ったんだ。あの橋のたもとで二位の尼と帝が入水したんだ。あの島で武蔵と小次郎が戦った（かもしれない）んだ。あの海に向こうから、長州の大砲が、船が……。次々と場面が浮かんできて、にわか歴史マニアの胸を熱くする。

「よくぞこのドラマチックな場所を決戦の地に選んだものだと思いますよ。語

り継がれる物語は違いますが、同じ出来事を共有したのは間違いないこと。だから、お互いに理解を深めて、財産にしたいですよ」

源平の歴史を教授してくださいった内山さんの言葉を思い出して、しみじみする。戦いに戦いを重ねた800年の歳月をくぐって得た、平和な今。大小の船が、明るい日差しの下、海峡を行き交う。

つくづく、関門とはなんと宿命的な……と感慨にふけていると、門司区役所のNさんから「えーと、この海峡が関門海峡と表記されたのは、海図だと昭和39年からだそうですよ。それまでは下関海峡と表記されていたそうです」との耳打ちが。えー、それってわりと最近じゃん！ 思わず、膝からくず折れる。

が、人生とはそういうものなのかもしれない、と強引に納得してしまおう（紙幅が尽きそうなので）。とにかく皆さん、日々に行き詰まりを感じたときは、ぜひ関門を訪れ、この地に吹く風に心を洗うといい。ここは、敗者に勝者、たとえどちら側でいたとしても、優しい時が流れる場所だから。きっと。



攘夷だ！ 夷狄を打ち払え！ 倒幕だ！ と勢いに乗る長州藩に、あくまで佐幕を買く小倉藩。下関や萩では今も学校で幕末史をみっちり教えているそうだが、北九州側でその歴史が語られることは少ない。せめて小倉生まれの作家、劉寒吉の小説『山河の賦』を読み、島村志津摩の活躍を胸に留めたい。

この海峡の潮流の速さと複雑さを、海辺に立ってぜひ体感してほしい。じっと見つめていると、その渦に吸い込まれそうになる。海をもっと近くに感じたいなら船に乗るのもいい。下関間を行き来する渡船のほか、個人で遊覧船のチャーターも可能。



# 海峡で暮らす人

写真 長野陽  
文 川つるやももこ

## 海を眺め、母を想う。伊藤多実恵さん

「わたしは、関門海峡の上で生まれたんです」

門司港で観光案内ボランティアとして活動する伊藤多実恵さんは、自己紹介代わりにいつもこう切り出す。すると、旅行者はみな一様に驚く。多実恵さんはそれが楽しい。

父・勝次郎と母・ヤスエの五女として多実恵さんが生を受けてから64年が経った。夫婦が、結婚後に故郷の天草からこの門司の港へ出てきたのは昭和の初めのことだ。門司港の開港は明治時代。間もなく石炭などを扱う国の特別輸出港に指定され、やがて日本の三大港として大正・昭和と発展を続けた国際貿易の要衝で、2人は港湾で貨物運搬の仕事を得る。そして7人の子どもを育て上げた。

大型の貨物船が海峡に入ると、船溜りに待機していた解はしけと呼ばれる荷役専用の木造舟で大型船に横付けし、物資の積み下ろしを行う。解にはエンジンが付いていないので、港外に出るとタグボートにつながれて数隻が連なり沖へ運ばれるのだが、こうした人と荷物が日に何度となく行き来する様子は、門司のみならず産業港として栄えた北九州のあらゆる港で馴染みの光景だった。多実恵さんは、その仕

事の最中に解の上で生まれたのだった。産婆代わりは沖仲士のおばちゃん。産湯は、その時横付けしていたアメリカの貨物船の湯を借りた。

母・ヤスエさんは、背はそれほど高くなかったが、スタイルが良く華奢な体つきとまづなの女性だった。「わりと陽気な母ちゃんだった」と多実恵さんは懐かしむ。母はモンペ姿に白い割烹着姿が常で、もちろんそのまま海へ出た。荷物を担ぐことはさすがにしなかったが、本船や岸壁に解を着船する際、艦綱とまづなを取る父に代わってロープの巻き上げを細腕で立派にこなしていたらしい。ある日、学校に行きたくないと駄々をこねた弟を、つまみ上げて引きずって行った母ちゃんの腕力に多実恵さんは感心し、なるほど、と腑に落ちた記憶がある。

「おまえは、関門海峡のど真ん中で生まれたんだよ」

父にも母にも、兄や姉たちにもそう言われて育った。当時その舟に乗っていた6歳上の次男・義行兄さんは「多実恵のお産の騒ぎのせいで、てんやわんやの大人たちに足を踏まれた」と、たびたび妹をからかった。海峡で生まれた

チェックのシャツに帽子姿は、ボランティアガイドで門司港を案内する時の伊藤多実恵さんの仕事着だ。かつて解で埋まっていたという第一船溜りは、今やすっかり観光スポットに。海上で生まれた多実恵さんの戸籍謄本には、ここが出生地と記載。





よそ行きの服を着た幼少の多実恵さんと割烹着姿の母。奥には、作業をする父が。無口な父が苦手だったが、読書好きは父親の影響、と。

多実恵さんは、関門海流の激しい流れに物怖じすることもなく、小学校に上がる前まで、両親と一緒に舟に乗って日々を過ごした。舩には、大人が2人やつと寝泊まりできるくらいの船室が造られていた。90センチ四方の蓋を開け梯子で下に降りる。そこへ潜り込んでよく遊んだ。ある時、船室からひよっこ顔を出す、自分の目の高さに海面が広がった。ブイ（浮標）にカモメが留まっていた。自分は海の上にいる。鮮明に思い出すことができる最初の記憶だ。

仕事を終えて船溜りに戻った舩には、雨ざらしを防ぐために、「上土間」と呼ばれる木製の丈夫な板を敷き詰めて蓋にした。多実恵さんも、お手伝いとはばかりに、その大きな板を張り切って運んだ。その時の、海面が見えなくなるほどびったりと密着するように停泊する舩の光景もよく覚えている。隣り合った舟の上土間の上を走り回っていて、水に落ちた。

小学校に上がると、海から少し遠ざかった。遊び相手は、すぐ上の兄2人、義行と正和、年子で生まれた弟の表一郎。母親代わりだった15歳離れた次女は多実恵さんが7歳の頃、広島島の尾道へ嫁いでいった。その4年後、慕っていた8歳上の姉（四女）千鶴子も大阪へ働きに出た。男の子に囲まれた多実恵さんは、男に負けまいとどんどんたくましくなった。きつと、強い母ちゃんを見て育ったからというのもあったかもしれない。

相変わらず、海峡で働きづめの両親は、時に海峡を出

て、宇部や萩田まで遠征してはオールナイの仕事に就いた。オールナイは沖仲仕の言葉でオールナイトの意。つまりは船溜りに戻らずに夜通し働くのだ。そんな時に、兄妹たちの母代わりとなったのは父の姉。とはいえ、多実恵さんは父が46歳の時の子どもで、その姉はさらに17歳上。つまり叔母にあたるその人は、母というよりも祖母という方がしっくりきた。兄妹はばあちゃん、ばあちゃんと呼んでよく懐いた。ばあちゃんは、家でこしらえた稲荷寿司や巻き寿司を仕入れた飲み物などと一緒にリヤカーに積んで、港で働く人へ売り歩いていった。やがて、その寿司の味が絶品と港街でも評判となり、運動会の時期になると弁当の注文がひっきりなしに入った。多実恵さんのお手伝いは、上土間運びから飯台に盛った酢飯の団扇煽ぎへと変わった。

ばあちゃんが、得意の料理の腕を振るい、留守を守っていた家は、門司港から少し離れた高台の途中、馬車が通る道の傍にあった。薄暗い裏長屋で、1階は3畳、2階は4畳半、そこに10人家族が暮らしていた。今思い返しても、どうやって寝泊まりしていたのか想像しがたい。両親はよく働いたが、お金は充分にあったとは言えない。でも、多実恵さんは「恵み多かれ」との意を込め、名付けてくれた両親に感謝している。生まれた時から、名前のとおり恵みの多い人生でした、と。

母ちゃんは64歳で亡くなった。多実恵さんはその時28歳。高校まで卒業させてもらった。その後、郵便局へ就職した。仕事を引退した母ちゃんと一度でいいから温泉旅行に行き

たかった。女同士、ゆっくり話がしたかった。女船方として立派に働いた母の仕事について聞きたいことがたくさんある。いや、それより母の人生を知りたかった。なんで父ちゃんと結婚したのか。苦勞をたくさんしたよね。

時々思い出す母ちゃんの顔、その額には傷痕がある。昔、まだ多実恵さんが小さかった頃、舟のウィンチを巻き上げている際にクランクが跳ねて母の頭に直撃。怪我したらしい。「父ちゃんにこたえられた」。そう話していたのを思い出す。傷を見るたびにかわいそうと思ひ、それと同じくらい強い気持ちで父ちゃんを恨めしく思ったこともある。多実恵さんは、いつの間にか強い女の子から女性へと成長していた。苦勞するくらいだったから自分は結婚しないぞ。そう思っていたけれど、84歳で天寿をまっとうした父を見送った後、その時たまたま足元に転がっていた縁で伴侶を得た。夫は心根の優しい人である。勝気な多実恵さんが息巻くと、「まあまあまあ」となだめてくれる。一方で、「忙しくて家におらん」ゆえ、放し飼いの母ちゃん」と呆れられてもいる。確かに、退職してからは、門司郷土会に入り観光ボランティアを始め、子育てサポーターや更生保護女性会の活動にも参加する。でも、いずれも自分を育ててくれたこの海峡の街に、感謝の気持ちを示したいからこそ。港の繁栄を底力で支えた、母のような強い女性たちがいたことを、後世へ伝えていくこともまた、自分ができることのひとつだと思っている。

多実恵さんは今年、敬愛する母ちゃんと同じ歳になった。

## 素顔の門司港を探して。 白石洋一さん

『白石商店』が門司港で商売を始めて94年が経つ。砂糖や醤油などの調味料や乾物・海産物、タワシやロウソクなど、生活に必要なあれこれ売る卸問屋として始まった店を、2代目である父から継いだのは20年前。白石洋一さんは思った。どうせなら、卸ではなくもつとお客さんと直に話せる、そして喜んでもらえる商売がしたい。間もなく、店で唯一のオリジナル商品だった明太子を看板に、

商いを海産物にしぼり小売商売をする決めた。明太子は、料理教室を開くほどの腕前だった母が味付けした調味液に、国産の無着色の真子を漬け込んだ自信作。この味じゃないとダメというお客さんがいたからこそ、それまで勤めた会社も辞める決心がついたというものだ。

明太子と一緒に扱う干物は、さまざまな産地のものを食べ比べて、鮮度も味も満足いくものを仕入れている。小

生まれも育ちも門司港だが、思えば車でくまなく走りまわるとあるような機会は今まで無かった。そして、狭いと思っていた故郷の街は意外や意外、遠いところは、往復で40分以上かかる。

配達へ出発するのは、たいてい店を閉めた後。デジタルカメラを必ず持つて出る。気になる風景に出会ったら、車を停めてシャッターを切り、店のSNSに載せるのがここ



商いだからこそ、扱う品の味わいを自分の口でお客さんへ伝えたい。チラシのポスティングには早々に見切りをつけ、どうせ時間とお金をかけるならと、2000円以上のお買い上げで門司区内は無料で配達します！と宣言した。すると、買い物に出られないお年寄りからも便利がられるようになり、お馴染みさんが徐々に増え、おまけに配達業務のおかげで街の抜け道・小道にも詳しくなった。

数年の日課だ。夕刻の景色が多いのはそれゆえ。夕陽マニアではないが、海峡に沈む夕陽は間違いなく美しいと思う。海峡はいつもそばにある。関門橋は上から見るのも、下から見上げるのもいいし、岸壁を走れば、びっくりするくらい巨大な船が通り過ぎることもある。でも、海を背にして住宅街へと足を踏み入るとまた違う景色がある。高台の坂道からも、狭い路地の隙間からも海峡は見える。

じつは、カメラを始めたのは、海峡の風景を撮りたかったからではない。最初は、頻繁に入れ替わる店の商品を写真に撮ってチラシに載せる必要があつて始めた。店を継いで間もなくのこと、ちょうど手が届く値段でデジタルカメラが発売されて、個人がインターネットのブログやホームページで情報発信を始めた時代だ。白石さんは考えた。どうせなら、ただ店の宣伝をするのではなく『白石商店』がある門司の街の風景と一緒に発信したいと思いついたのだ。そうして、「なつかしの道」と題して写真を撮りためていった。駅周辺を整備して〈門司港レトロ地区〉がオープンしたのもちょうどその頃。すっかり観光の街になった門司港だが、そのエリアから少しだけ足を延ばして、もっと街の内側にも入って来てほしい。そう白石さんは願っている。国道3号線を渡った東側、銀天街やその周辺は、ひと頃より数は減ったが、真摯に商いを続けるいい店がたくさんある。ここにこそ海峡の街の素顔がある。

「一人でも多くの人に、それを知ってもらいたい」

「こんなに陽が高いうちに海のそばに来るのは久しぶり」と白石さん。四季を通じて撮りためた関門の写真を、店のギフト用のポストカードにしている。





日・祝も診療可!

# 即日インプラントが出来る歯医者

インプラント1本 税抜 94,500円~375,000円  
インプラント治療に保険は適用されません。

組織力アップ、チーム増強



DENTAL TEAM JAPAN デンタル チーム ジャパン

TV放映されました! ▶ デンタル チーム ジャパン 検索

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3丁目30-15ライオンズマンション博多2F 診療時間/平日9:00~19:00 土9:00~18:00 (日・祝診療可) 昼休み13:00~14:30 ※インプラント治療に保険は適用されません。

この紙の上にスマートフォンを置くだけで充電出来ません。



ここにスマートフォンを置くだけ!!

YK STORES株式会社 <http://www.ykstores.com>

北九州市小倉北区浅野2丁目14-3あるあるCity2号館3階 TEL.050-5582-8059

※充電はスマートフォンに付属の充電器でお願い致します。

業務用エアコン **70% OFF** 以上  
地域NO.1の安さ目指し  
お見積りいたします!  
の価格で販売!

オール電化 **72% OFF**  
地域NO.1の安さで目指し、ご提供いたします!  
セット合計 101.3万円を (税別)  
オール電化フルオートエコキュート IHクッキングヒーター 台所&浴室リモコン  
セット一例 ●ダイキン・三菱 SRT-W37 ●三菱CS-G32MS ●三菱RMCB-1SE  
エコキュートの最新型を **283,640円** でお見積り致します!  
フルオート370L ●別注はメーカー希望小売価格より。

九州電気設備工事株式会社 ☎0120-03-1456

TVQ 25. 中小あつせになる  
ぐっ!ジョブは、九州の企業応援サポーター!  
九州ゲンキ主義。



NO GOOD JOB, NO LIFE! 土曜夜 2:30

元気な企業にエールを! SATURDAY PM

GYAO! ストアにて配信中!!

降り積もる 光の歴史 —

15th Anniversary

# 小倉イルミネーション 2016

KOKURA ILLUMINATION

2016 11/4 金 - 2017 1/9 祝

福岡県北九州市小倉北区都心部 点灯時間 17:00-22:00  
※12月31日(土)のみ17:00-27:00

紫川周辺

★リバーウォーク北九州 ★鶴外橋 ★小倉井筒屋 ★ホテルクラウンパレス小倉  
★北九州市庁舎周辺 ★小倉城お城通り ★第一交通産業棟(馬借二丁目) 他

JR小倉駅周辺

★JR小倉城口・新幹線口 ★アミュプラザ小倉 ★チャチャタウン小倉  
★あるあるCity ★小倉ちゅうぎん通り ★福岡銀行 北九州営業部 他

年末年始も運行中!

子供から大人まで大人気!

## イルミネーショントレイン きらぽっぽ

お子様から大人まで大人気! 家族みんなで出発進行!!  
小倉城庭園からリバーウォーク北九州を  
ファンタジックな光に包まれて街を走ります!

ところ…小倉城庭園周辺  
のりば・発着…リバーウォーク北九州横・円形広場  
おひとり様(おとな、こども)  
……………1周500円(1周約10分)

よていび

2016年12月3日(土)  
4日(日)・10日(土)  
11日(日)・17日(土)  
18日(日)・23日(金・祝)  
24日(土)・25日(日)  
31日(土)  
2017年1月1日(日・祝)  
7日(土)・8日(日)  
9日(月・祝)

時間 17:00~21:30 (21:00まで受付)

※12月23・24・25・31日、1月1・7・8・9日は15:00~21:30の運行を行います。  
※荒天時等都合により日時変更の場合がございます。  
詳しくは公式Websiteを確認ください。



スマホを使って小倉イルミネーションをもっと楽しもう!

## イルミネGO!

スタンプラリーで4カ所を回ると、抽選のチャンス!

スタンプラリーで商品券をゲット!  
スマホを使って各イルミネーションにあるタッチポイント  
でスタンプを4つゲット!

合計20名の方に  
商品券3,000円が  
当たります!



主催/小倉イルミネーション実行委員会 お問い合わせ/実行委員会事務局【北九州まちづくり応援団(株)内】TEL.093-541-0191  
e-mail/contact@kokura-illumination.jp

詳しい情報は公式Websiteをご覧ください。 <http://kokura-illumination.jp>

小倉イルミネーション 検索



構成団体(順不同)/福岡銀行、第一交通産業(株)、小倉中央商業連合会、小倉井筒屋、リバーウォーク北九州、アミュプラザ小倉、チャチャタウン小倉  
ホテルクラウンパレス小倉、あるあるCity、コレット/アイム、北九州商工会議所、北九州市  
協力団体(順不同)/(公社)北九州市観光協会、We Love 小倉協議会、小倉社交業組合、西日本工業大学、九州旅客鉄道(株)、北九州まちづくり応援団(株)



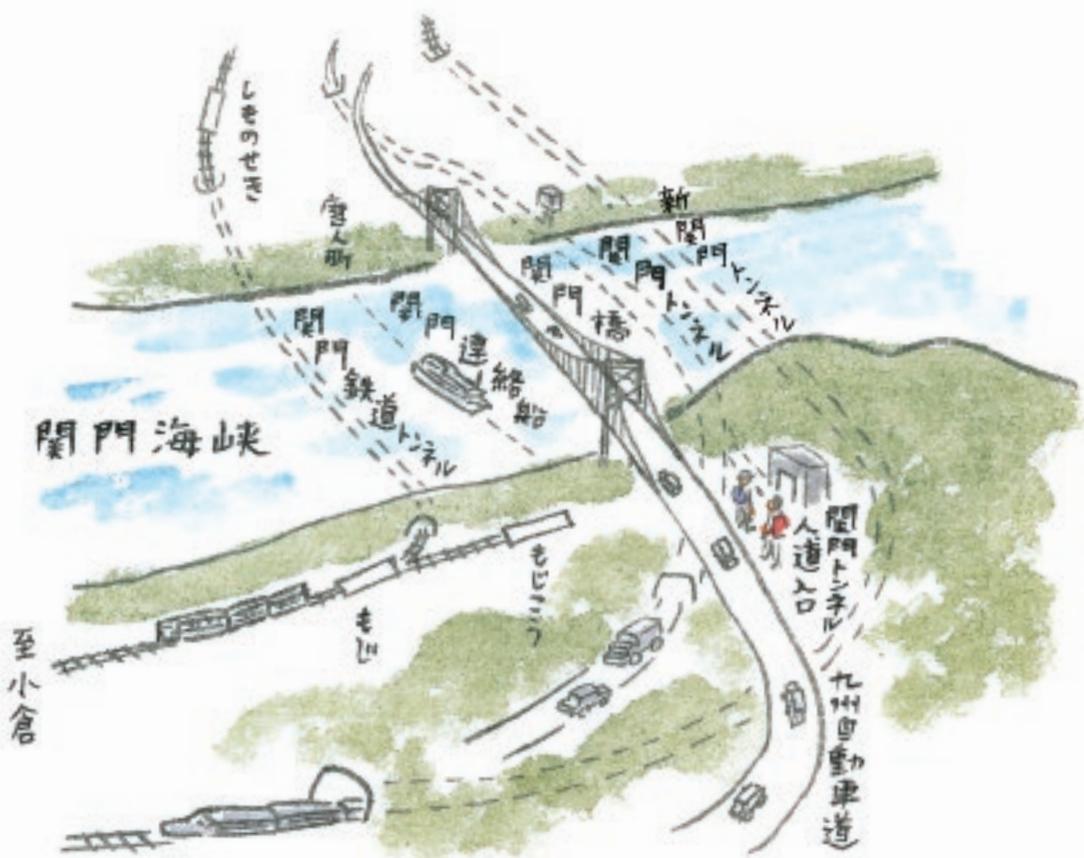
# 海峡を渡る道

文：つるやもこ  
写真提供：九州鉄道記念館  
資料提供：北九州イノベーションセンター

## 海峡ひとつ飛び。

関門海峡を目の前にしたことがある人もそうでない人も、ここまで読み進めていただけたら、すでにおわかりかもしれない。そう、対岸はすぐそこ。北九州と下関は、うちとあっち、スープも冷めない距離にあるご近所さんである。そのご近所同士、九州と本州をつなぐ道は、海上・海底を合わせて6本ある。

最も歴史が古い関門鉄道トンネル（在来線）を筆頭に、自動車道路の関門（国道2号線）トンネル、その真下を通る関門トンネル人道、海峡のシンボルである関門橋（関門自動車道）、民間の関門汽船が運航する関門連絡船、山陽新幹線が行き来する新関門トンネルまで、時代と共に海峡越えの方法は自由に選べるようになった。旅はスピード重視と新幹線に乗るもよし（門司港を通過するが）、関門橋を走り抜け、海面61メートルの高さからの眺望を楽しむもよし。逆に、橋を下からのんびり眺めたいなら連絡船がおすすめだ。節約するならば、はい、人道トンネルの交通料



は無料（自転車・原付は20円）である。歩いて渡っても距離はたったの780メートル、所要時間は15分ほど。ちなみに、海底の人道トンネルと聞いて水族館のようなガラス張りのトンネルを思い浮かべる人もたまにいます。泳ぐ関門海峡たこを眺めながらのウォーキングはできませんので、あしからず。

## 世界初の海底トンネル。

6つの道のうち、海路を除いた5本中4本の道は、関門海峡の海域の中で、最も潮の流れが速い海峡の最狭部、早瀬瀬戸と呼ばれる辺りを通っている。残す1本だけが、下関市の彦島（弟子待町）とJR小森江駅近くを結ぶ、大瀬戸の海底を通過しているのだが、それこそが、世界初の海底トンネル「関門鉄道トンネル」だ。この海底の道の完成には、気軽に海峡を渡れるようになった今では考えられないような努力があった。

ところで、関門鉄道トンネルは、厳密には2本ある。上りと下りのトンネルが並行して走っているのだ。着工は下り線が先で、開通は1942（昭和17）年のこと。下り工事と並行して始まった上り線の開通は、その2年後の1944（昭和19）年。戦時下において肅々と進められた計画の成就を、当時の新聞は「讃へる世紀の偉業」と文字通り賞賛した。だが、関門海峡に船以外の道を通す計画自体は、じつは半世紀近くも前から存在したのである。それは、1891（明治24）年に、九州鉄道が門司駅（現・門司港駅）まで開通した数年後のことだった。

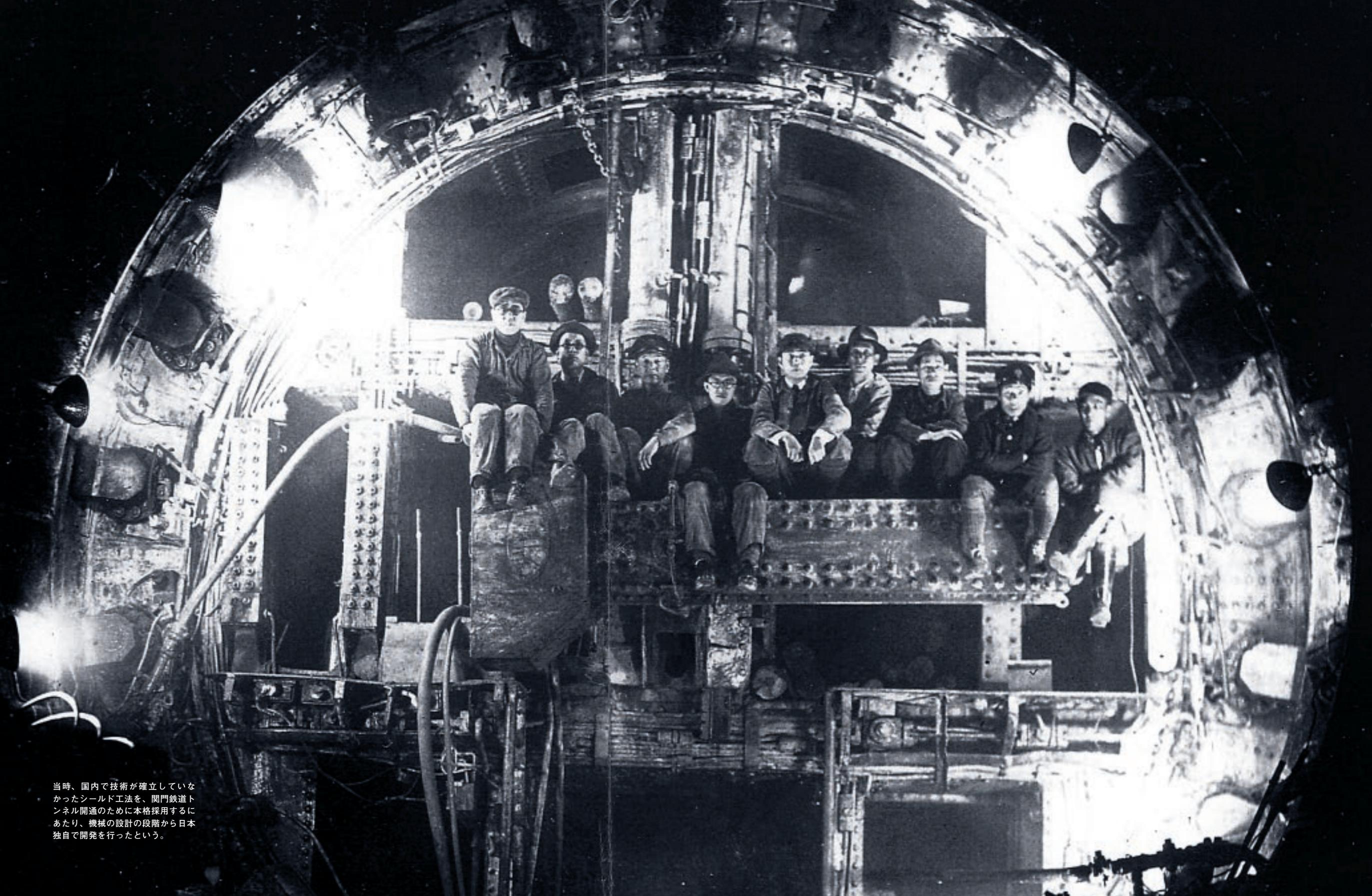
## 海底という選択。

1911（明治44）年に、関門連絡強化のために、渡船の増強や、橋梁もしくはトンネルの建設の必要性が話し合われ、国防上の理由もあり海底トンネルの建設が決定した。だが、幾度となく地質調査を行いながらも、第一次世界大戦、関東大震災、世界恐慌など、その後の情勢に翻弄され、計画はそのたびに見送られた。

呆れるほど長引いてしまったその計画を、最終的に後押ししたのは、石炭産業の盛り上がりだ。当時、本州と九州をつないでいた国産の海上交通路（関門連絡船・貨車航送船）だけではすでに限界がきていたのだ。

当時の鉄道省内に技術委員会が立ち上がったのは1935（昭和10）年のこと。翌年の秋に起工式を迎え、ようやく建設着手となった。

満を持して始まった計画とはいえ、世界で初めて、誰も



当時、国内で技術が確立していなかったシールド工法を、開門鉄道トンネル開通のために本格採用するにあたり、機械の設計の段階から日本独自で開発を行ったという。

# アラウンド・ザ 関門海峡



#### ●門司港レトロ地区

明治後半から横浜、神戸と並ぶ国際貿易港として栄えた門司港は、今も当時の面影を残すレトロな建物が数多く立ち並ぶ。1914(大正3)年に建築されたネオ・ルネッサンス様式の「JR門司港駅」は、鉄道駅舎としては初めて国の重要文化財に指定。現在は保存修理工事のため、駅舎を見ることができないが、見学デッキを設置し工事の様子を見ることができる。
○お問い合わせ　北九州市観光協会門司港観光案内所／門司区西海岸 1-6-2 ／☎093-321-6110／9:00～18:00／アクセス　JR門司港駅より徒歩約2分

●**関門海峡ミュージアム(海峡ドラマシップ)**
源平合戦や宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘など、数々の歴史の舞台となった関門海峡の歴史を楽しく学べる。
○門司区西海岸 1-3-3 ／☎093-331-6700／9:00～17:00(入館は16:30まで/施設により異なる)／不定休(年5回程度)／海峡アトリウム、海峡歴史回廊、リアルタイム関門海峡／大人500円、小・中学生200円／アクセス　JR門司港駅より徒歩約5分

#### ●海峡プラザ

門司港レトロ地区の第一船溜りに面した複合商業施設。
○門司区港町／☎093-332-3121／10:00～20:00(飲食は11:00～22:00)／無休／アクセス　JR門司港駅より徒歩約5分

#### ●関門トンネル人道

1958(昭和33)年に開通した、国内では珍しい海底人道トンネル。全長約780mのトンネルは歩くと対岸まで約15分。「関門TOPPA!記念証」も発行中。
○門司区大字門司／☎093-321-6110／6:00～22:00／無休/徒歩無料、自転車・原付20円/アクセス　JR門司港駅よりバス「和布刈」行で約13分「関門トンネル人道口」下車すぐ

#### ●門司港レトロ観光列車「潮風号」

九州鉄道記念館駅から関門海峡めかり駅までの2.1kmを、最高時速15kmで走る観光トロッコ列車。
○門司区西海岸 1 ／☎093-331-1065／10:00～17:10(3月中旬～11月末までの土・日・祝、春休み・GW・夏休みは毎日運行)／片道大人300円、小人150円

#### ●巖流島

正式名称は「船島」。宮本武蔵と佐々木小次郎が決闘し、敗れた佐々木小次郎の流儀「巖流」とって巖流島と呼ばれる。
○門司港棧橋(JR門司港駅から徒歩約3分)、下関唐戸一号棧橋、いずれも関門汽船乗船で約10分/関　関門汽船(株)門司営業所☎093-331-0222

#### ●九州鉄道記念館

九州鉄道発祥の地・門司港レトロに建つ鉄道の記念館。往年の実物車両や鉄道文化遺産の展示のほか、ミニ鉄道や運転シミュレーターなどを見て体験して楽しめる。
○門司区清滝2-3／☎093-322-1006／9:00～17:00(入館は16:30まで)／第2水曜(8月は除く)休、7月は第2水・木休/大人・高校生300円、中学生以下150円、4歳児未満無料/アクセス　JR門司港駅より徒歩約3分

#### ●三宜楼(さんきろう)

1931(昭和6)年に建てられた木造3階建ての旧料亭。数寄屋造りの俳句の間、大広間、展示室など見学可。粋を尽くした意匠の数々を見ることができる。
○門司区清滝 3-6-8 ／☎093-321-2651／10:00～17:00/月曜(祝祭日の場合は翌日)休/アクセス　門司港駅から徒歩約8分

#### ●和布刈神社

西暦200(仲哀天皇9)年頃に創建されたといわれる九州最北の神社。壇ノ浦の合戦前夜、平家一門が最後の宴を開いたとされる説や、県指定無形民俗文化財に指定されている「和布刈神事」が有名。
○門司区大字門司3492／☎093-321-6110/アクセス　JR門司港駅よりバス「和布刈」行で約11分「和布刈神社前」下車すぐ

#### ●めかり公園第二展望台

門司港市街から下関市街までの大パノラマが広がる。壇ノ浦合戦の模様が再現された高さ3m長さ44mの有田焼の壁画もある。
○門司区大字門司めかり公園第二展望台/アクセス　JR門司港駅よりタクシーで約10分

#### ●ノーフォーク広場・めかり観潮遊歩道

目の前には関門海峡が広がり、行き交う船についての解説板も設置。また、広場から潮見鼻公園周辺まで続く遊歩道からは関門海峡をまたぐ雄大な関門橋を一望することもできる。
○門司区大字門司2-5 /アクセス　JR門司港駅よりバス「和布刈」行で約10分「和布刈公園前」下車すぐ

#### ●関門連絡船

門司港～下関間をわずか5分で結ぶ。関門海峡横断の船旅は陸から見られない景色を満喫できる。
○☎093-331-0222／6:15～21:50(日・祝7:10～)/片道)大人400円、小人200円、自転車1台250円/アクセス　JR門司港駅より徒歩約1分

#### ●出光美術館(門司)

出光興産創業者・出光佐三氏の美術コレクションを中心に展示。佐三氏の事蹟をわかりやすく展示した出光創業史料室も併設。今年10月28日にリニューアルオープン。
○門司区東港町／☎093-332-0251 /10:00～17:00(入館は16:30まで)/月、年末年始休　\*展示替期間中不定休あり/美術館：一般700円、高・大生500円、史料室：一般100円/アクセス　JR門司港駅より徒歩約8分

#### ●関門海峡らいぶ館(旧JR九州本社ビル1階)

関門海峡に設置されたライブカメラの映像を見たり、操船シミュレーション映像で大型船から見渡しているような類似体験をしながら、海の安全を学ぶことができる。
○門司区西海岸 1-6-2 /☎093-322-5002 /9:00～18:00(入館は17:30まで) /第2・4木休/無料/アクセス　JR門司港駅より徒歩約2分

#### ●小倉城

1602(慶長7)年、細川忠興公が約7年の歳月を経て築城した小倉のシンボル。「唐造り」の名城として知られており、現在は高度な技術を駆使した展示などが人気。
○小倉北区内/☎093-561-1210 /9:00～18:00(4～10月)9:00～17:00(11～3月) \*入館は閉館の30分前まで/無休/大人350円、中高生200円、小学生100円/アクセス JR小倉駅より徒歩約15分

#### ●北九州市立いのちのたび博物館

生命の進化の道筋と人の命の歩みを壮大なスケールで展示解説した西日本最大級の自然史・歴史博物館。歴史的資料も充実。常設展示の他、年3～4回の特別展を開催。
○八幡東区東田2-4-1 /☎093-681-1011 /9:00～17:00(入館は16:30まで) /年末年始休、6月下旬頃約1週間、害虫駆除のため臨時休館あり/常設展観覧料大人500円、高校生以上の学生300円、小・中学生200円/アクセス　JRスペースワールド駅より徒歩約5分

関門鉄道トンネルの開通までの道のりを語ることは、当時の日本の掘削土木技術の総ざらいとも言える。普通工法に加えて、開削工法、潜函工法、圧気工法、シールド工法と、トンネル中間まで掘り進めるのに実に5つの技術を導

### 土木技術の結集。

い岩盤に支えられている一方で、門司側の地盤構造は複雑で、数カ所に工事を難しくする不良地帯が存在することがわかっていった。そのため地盤によって工法を変えながら掘り進めることが必要となった。



関門トンネル開通記念切符（所蔵・宇都宮イッヅ）

### 道は尊き。

気軽に海峡を渡れる今では、考えられないような時代があった。先人が切り開いた道は尊い。そう思って再び海峡の傍らに立つ。海底に思いを馳せ、そびえる関門橋を見上げると、ここが土木史の聖地と知る。
今、関門鉄道トンネルには一日約200本の列車が通るそうだ。開通から74年が経ち、老朽化が否めないなか、小倉―下関をつなぐ新トンネル建設計画の話も持ち上がっている。かつてトンネル貫通ルートを決める際、北九州側のトンネル口を、予定していた新町(現在のJR門司駅周辺)から小森江に変更した理由は、歴史ある要衝、門司港とそ

の街の活気を守りたいという門司市民(当時)の声を聞き入れてのことだった。門司港を愛する市民の気持ちを知らば、今においてもそれに同感である。

# 門司の出光さん

文 大谷道子 絵 牧野伊三夫  
写真提供 出光美術館（門司）

門司港駅を降り、潮風を背に受けながらレトロ地区を歩く。その一角に、蔦の絡まるレンガの壁がある。向かい側に立つ真新しい建物は、この秋、リニューアルオープンした『出光美術館（門司）』。歴史を感じさせる壁の風合いと、近代的な建物との対比が印象的だ。

「もともとは、出光興産経営の美術館として平成12年に



創業の頃の「店主」。幼少時は病弱だったが、そのことが独自の自分を育てたと後年、述懐している。

開館しましたが、のちに公益財団法人出光佐三記念美術館を作り、独立させて現在の美術館になりました」と、現在の館長代理、佐々邦昭さんが言う。出光佐三という個人名を冠したとおり、ここは、出光興産株式会社の創業者に所縁の深い美術館なのである。

その人の名が再び脚光を浴びることになったのは、4年前。出光佐三の生涯と出光興産創業の物語をモデルにした小説『海賊とよばれた男』（百田尚樹著・講談社）がベストセラーとなり、逆境の中、一代で大企業を起こした男のドラマチックな人生に注目が集まった。今年12月には、同作を原作とする映画（『海賊とよばれた男』12月10日公開・東宝）の封切りを控えている。

美術館が門司に開かれたのには、理由があった。すべての一日に夜明けがあるように、人の人生にも、また、その人が作り出す組織にも黎明期がある。出光佐三氏が出光興産の原点である出光商会を興したのは、門司。のちに、激動の時代の荒波に洗われることになるその名は、海峡のふもとで光り始めたのだ。

## 「海賊」は門司で生まれた

石油の販売を手がけ、のちにアジア各国へ進出し、終戦を経て石油元売指定を受けて、国内外で幅広くエネルギー事業を展開する出光興産。その始まりは、美術館からもほど近い門司の東本町一丁目に開店した、小さな石油の販売店だった。明治44（1911）年のことである。

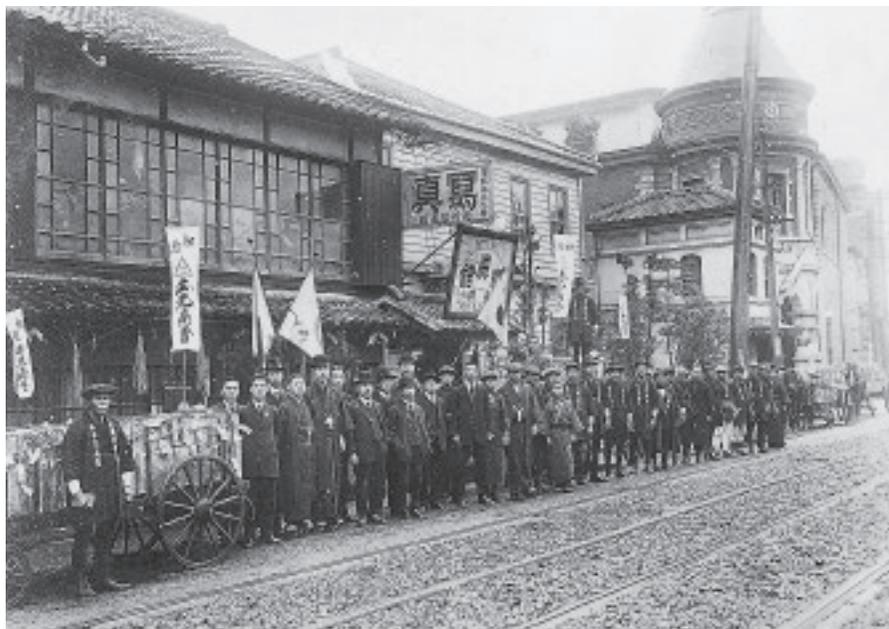
佐三氏の出身地は、現在の福岡県宗像市赤間。明治18（1885）年、藍染の原料となる藍玉の仕入販売を行う家の次男として誕生している。その年の末には伊藤博文が初代内閣総理大臣に任命され、政治、経済、あらゆる面で日本が近代化の道をひた走った時代。福岡市商業学校、続いて神戸高等商業学校（現・神戸大学経済学部）で学んだ佐三氏は、当初は外交官になることを目指していたものの、父からの「男なら商人として独立すべき」との諭しを受け、事業家へ転向したという。

しかし、彼はなぜ、縁のない門司を創業の地に選んだのか？ それには「やはり立地条件のことが、大きかったのではないだろうか」と、佐々さんは語る。

「門司港は、明治22年には特別輸港に指定され、横浜、神戸に肩を並べる日本有数の貿易港になっていた。背後に筑豊炭田を抱える、北九州工業地帯の玄関口でもあります。店主（＝佐三氏）は最初、機械油で商売を始めていますが、それも需要を見込んでのことだったと思います」

また、石炭全盛の時代において機械油、のちに燃料油を

扱うようになるのには、ひとつの伏線があった。『出光美術館（門司）』と同じ敷地内にある『出光創業史料室』。佐三氏個人の人生の軌跡と社の沿革にまつわる品々が収蔵、公開されている中で、ひととき目を引く資料がある。原稿



大正2年に移転した門司東本町二丁目の店舗で、初荷を送り出す社員一同。海峡を船で走り回り、漁船へ燃料を販売した「海賊」たちの本拠地であった。



用紙に筆で書かれた表紙には、「筑豊炭及若松港」の文字。これは、神戸高等商業学校卒業時に書き上げた佐三氏の卒業論文であり、この時点で彼はすでに石油の有用性について言及し、独自の分析を行っているのだ。

「石油に対する関心が高かった店主は、石炭はあと50年でだめになり、エネルギーの中心は石油になると書いている。実際、その頃に三井三池争議が起こり、予言は的中しています。好奇心旺盛で、機械油を自ら開発していました。その分野で苦戦する中、漁船用の燃料として軽油に目をつけた。ちょうど、油で動く発動機船が普及し始めた時期でもありましたから」（佐々さん）

その商売の手法が、斬新だった。当時、石油の販売はアメリカ資本のスタンダード・オイル、日本石油ほか、いくつかの大企業による寡占状態で、販売網は既に張り巡らされており、新参者の出光商會に割り込む余地がなかった。しかし佐三氏は、盲点を突き、関門海峡の海上で直接、漁船相手に油を販売することを思いついたのである。曰く、海上にテリトリーはないはずだ——と。

「言ってみれば、完全な屁理屈ですよ（笑）。もちろん順調にいったわけではなく、日本石油の特約店などからは、海上を荒らし回っている出光を何とかしろと声が上がった。それを、店主とかねてから懇意だった日石の下関支店長が押さえてくれたようです。『出光は海賊みたいなものだから、しょうがないじゃないか』と」



縁に恵まれた人でもあった。写真は、出光商會の創業資金を佐三氏に与えた生涯の恩人、日田重太郎氏。

### 海を越え、荒波をかぶり

出光商會の「海賊」的手法は、関門海峡上に留まらなかった。石油販売区域の縛りが厳しい国内市場を見切り、新天地を海外に求め、積極的に打って出たのだ。

南満州鉄道株式会社（略称「満鉄」）に、独自に開発した凍りにくい車軸油を売り込み、これが成功。第一次世界大戦終結の頃には、門司に加え、下関、大連に事業所を設置し、以降は中国本土、朝鮮半島、台湾へ進出。第二次世界大戦中は、経済統制という厳しい状況下で、フィリピンなど南洋へも販路を広げた。戦争は、石油販売を独占する外国のメジャーへ、公平公正な販売と日本の石油産業興隆の夢をかけて挑んだ、企業人としての戦いでもあった。

一方で、出光では創業以来、社員と一体になって事業を進めるといふ、家族的な経営が行われてきた。のちに社の経営理念のひとつとして佐三氏自身が掲げる「大家族主義」が、徹底されていたのである。

「店主は創業当時から、社員は両親から預かって自分の子として育てるものだと考えていた。これには、神戸高商の校長先生が、生徒一人一人を息子のように心配し、接していたことが原点にあるようです」（佐々さん）

その精神がもっとも発揮されたのは、敗戦後。海外資産のすべてを没収され、ほぼ身ぐるみをはがされた状態の出光に残されたのは、当時の価格で約250万円もの莫大な借金と、仕事を失った約1000人もの社員たちだった。通常なら、事業継続を断念する場面である。が、そんな中で佐三氏は、1人の首も切らないと宣言したのだ。

「玉音放送の2日後には、社員に向けて〈愚痴をやめよ〉〈世界無比の三千年の歴史を見直せ〉〈そして今から建設にかかれ〉と、戦後復興のための訓示を行っています。これは、すごいことだと思えますね。その後、会社の存続のためにさまざまな事業を手がけますが、社員たちもそれに応えて、よく働いた。海軍が保有していた石油タンクの底に残った油を浚うという、誰もが嫌がるきつい仕事に一丸となって取り組んだといえますから」（佐々さん）

どんなときも人間を信じ、存在を尊重する——その精神は、佐三氏の発する言葉の端々に迸はほとっていた。



リーグクラブを創立したり、門司ゴルフクラブの理事長に就任したり。現在も行われている『門司みなと祭』も、店主の呼びかけで始まったものです。昭和9（1934）年、本州と九州を結ぶ海底トンネルが計画された際には、当初は下関の彦島と小倉を結ぶ予定だったのですが、店主が関係者を風師山の上へ連れていって地形を説明し、門司駅（旧大里駅）に近づけて新駅を建設するように陳情し、成功しています」（佐々さん）



創業時のトレードマークは「ピリケン」。戦後、輸入販売を始めてからはアポロマークが全国に定着。

昭和33（1958）年、佐三氏は長年の門司への貢献を認められ、門司市名誉市民の称号を受けるが、ほどなくして、門司市は5市合併により北九州市門司区となった。結果、氏の名はオンリーワンの門司市名誉市民として市史に刻まれることとなった。

経営の第一線を退いてからは、福岡県内をはじめとして全国各地で講演活動を行い、とくに学生、子どもたちに積極的に語りかけ、日本人、企業人

（人間というものは、お互いに仲良くして力をあわせていくということ、それが人間の尊厳であり、平和のもとであり、美しさだと思います。それを私は人間尊重と言っているわけなんです）（佐三氏のスピーチより）

ところで、お気づきだろうか？ 佐々さんは取材中ずつと、佐三氏のことを「店主」と呼んでいる。これは佐三氏が好んだ呼び名で、最終的には会社の定款を書き換えさせてまで定着させた、正式な呼称。もちろん、そのルーツは、出光商會時代にある。

門司で創業したときの出光商會は、佐三氏の家族親族も含め、わずか10人ほどの小さな組織であったという。ひとつ屋根の下、皆で力を合わせて事業を育てる精神が、もっとも困難なときに再び発揮され、出光は再び、戦後の世の中という大海原に漕ぎ出した。

## 第二の故郷を愛した人

企業体としての出光は、戦中の昭和15（1940）年に出光興産株式会社を設立（出光商會の合併は、戦後の昭和22年）。同時に、本社機能は東京へ移管され、佐三氏も家族とともに東京に転居した。

が、創業の地である門司への愛着は、その後も深いものであったという。

「戦前には、門司商工会議所の会頭になったり、ロータとしてのあり方を説いた佐三氏。昭和56（1981）年、その激動の生涯は、95歳で幕を閉じた。

「後を継がれた出光昭介さん（佐三氏長男。出光興産社長、会長を経て、現在『出光美術館』館長）も門司育ち。門司港レトロ地区に美術館のほか、店主の生涯を紹介する『出光創業史料室』を作ったのも、やはり故郷である門司への並々ならぬ思い入れのためではないでしょうか」（佐々さん）

美術館、史料室というかたちで残された、創業の地への思い。高校生の頃、骨董品店で見かけた江戸時代中期の禅僧、仙厓義梵の絵に魅了されて以来、東洋美術に親しみ、かねてから「事業を芸術化する」を標榜してきた佐三氏。彼の遺した言葉に、こんな一節がある。

（私の一生というものは、目で美術を見て、心で人の美しさを見るといふことで、いつも美というものにリードされてきたような気がする）

海賊が一生をかけて見た、美しい夢。それが今も、港街の一角に息づいているのだ。

ボートレース若松 東スタンド  
平成28年10月1日  
リニューアルオープン!!



ファミリーや女性の快適性を  
徹底的に追求!

東スタンド棟リニューアルに合わせ、より快適な観戦環境をご提供するため、場内各所に心休まる緑の空間を創出。また、女性や家族連れのファンも安心して楽しめるよう、様々な施設をご用意しております。



わかわくらんど

親子のふれあい

子どものあそび場  
「わかわくらんど」

親子等のふれあいを促す子育てスペースとして、乳幼児から小学校低学年までを対象に、知育玩具を揃えたあそび場「わかわくらんど」を整備しました。

わかわくらんどイメージ図



食の魅力

フードコート

最大70名が食事を楽しめます。常設店として新たに2店舗が出店するほか、広く地元のグルメを宣伝する場として、月替わりで企画店舗が出店します。



女性の快適性

女性専用リラックススペース

パウダーコーナーとレストコーナーを備えた天然大理石の部屋全体に観葉植物を置き、映像や音楽などの快適環境を整えました。非日常的な空間の中でくつろぎ、リフレッシュしていただけます。



6場の場外発売

最大6場の場外発売

6場の場外発売開始に合わせて、6場分のレースを一カ所で観戦できるように、最大70インチのモニター群を6組配置しました。

63rd ボートレースメモリアル BOAT RACE MEMORIAL 平成29年8月22日(火)-27日(日) 開催決定!

BOAT RACE 若松  
ニポニピア北九州メディアドーム・カッパ★ピア

http://www.wmb.jp/ 電話投票コード 20#

北九州市若松区赤岩町13-1 tel.093-791-3400



ホテルのような上質な空間



- 小倉最大 1室204名まで収容可
- 全館Wi-Fi完備 ケータリングもOK!!
- JR小倉駅から徒歩7分
- 駐車場完備234台  
(会議室利用者優待サービスあり)

貸会議室・イベントホール  
パークサイドビル

北九州市小倉北区堺町1-6-13  
☎093-551-3878  
http://www.parksidebld.com



ねえ、次の旅行、フェリーにしようよ。

レストランで食事をして、湯船に浸かり、広大な海を眺める。フェリーの旅は、思い出に残るエピソードがたくさん生まれるドラマチックな体験です。

CITY LINE  
MEIMON TAIYO FERRY

北九州 新門司港 ← 毎日2便 夕刻出発・翌朝到着 → 大阪 南港

運航ダイヤ	1便船 17:00 発 05:30 着
	2便船 19:50 発 08:30 着

旅客予約センター 050 (3784) 9680

ご予約はインターネットでも承ります www.cityline.co.jp

CITY LINE 名門大洋フェリー

# あなたの理想、北九州市では普通です。

□ 少ない家賃で、広い家に住みたい。

北九州市の借家賃は、大都市の中で**第2位**の安さ

□ 子育てには、特に力を入れたい。

「次世代育成環境ランキング」において、北九州市は**5年連続**で政令指定都市**第1位**

□ 財布のヒモは、「固く」が信条。

政令指定都市で、北九州市は物価の安さが**第1位**

□ 医療が充実した街で安心して暮らしたい。

北九州市の人口10万人あたりの病床数は政令指定都市の中で**第2位**



理想の生き方がここにある

1つでも理想を実現したい人は、

北九州ライフ

検索

開設  
しました!

シニア・ハローワーク戸畑

◆電話：093-871-1338

応援  
しています!

北九州市U・Iターン応援オフィス

◆電話：0120-0823-46

移転  
しました!

北九州市 東京事務所

◆電話：0120-97-2849

北九州市企画調整局地方創生推進室  
◆電話：093-582-2174 ◆時間：平日 8:30～17:15  
◆メール：kikaku-chihouseisei@city.kitakyushu.lg.jp



## \*アンケート

『雲のうえ』25号をお読みいただきありがとうございました。ご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望を、縦じ込みはがきでお寄せください。抽選で19名の方に以下のプレゼントをお贈りいたします。2017年4月15日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。\*応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

A：北九州一東空羽田間往復航空券目録 (株式会社スターフライヤー) ⇒ 1名様

B：ホテルペア宿泊券 (北九州八幡ロイヤルホテル・ステーションホテル小倉・千草ホテル・ホテルクラウンパレス北九州・ホテルクラウンパレス小倉・プレミアホテル門司港・リーガロイヤルホテル小倉) ⇒ 各1名様 \*ご希望のホテル名をお書きください。

C：スペースワールドペアフリーパス券 (株式会社スペースワールド) ⇒ 1名様

D：関門海峡ミュージアムペア招待券と、関門海峡航路下敷 (関門海上保安部提供) ⇒ 5名様

E：北九州市ふるさとかるた (北九州市にぎわいづくり懇話会) ⇒ 5名様

◎25号特別プレゼント  
足立山妙見宮(小倉北区妙見町17-2)からのご好意で、編集委員・牧野伊三夫がデザインした絵馬の引換券を先着30名様プレゼントします。引換券を社務所(9:00~16:00)にお持ちいただければ絵馬と交換いたします。ご希望の方は、縦じ込みはがきのご希望欄に「絵馬」と書いてご応募ください。引き換え期間：2017年1月16日～2月28日。



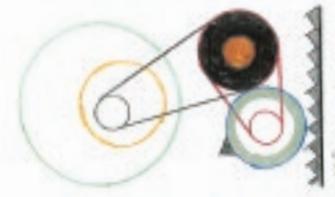
青雲／白雲  
\*特集「おやつ時間」。お菓子でもなく、スイーツでもない何か魔法のような響きがある言葉ですね。ページをめくるたびに幼い頃のおやつ時間を思い出してワクワクしました。針と糸からペンと紙に持ち替えた横尾さんの文章が軽やかでとても心地よく読めました。本当におやつが好きでいらっしやるんですね。  
\*年に2回小倉に住む祖父の家に遊びに行くたびに、最新号をいただくのを楽しみにしています。ラーメンうどん特集の時は「雲のうえ」を片手にお店を訪ねました。いつも人を主眼に記事を書かれていて、北九州には素敵な人が多いなと思っていました。(千葉県浦安市・43歳女性)  
\*「北九州ぼたもち考」。ぼたもちにかけの九州人の情熱を文章にしてもいい、すっきりしたと思います。同じ県内でありながら近くて遠い場所。八幡製鐵所が生活の背景にあるからというのは大変納得でした。  
(福岡県宗像市・43歳男性)  
\*51年前、バスガイドになって初め

ての1泊旅行の団体さんが、入江製菓さんでした。別府までなごやかな家族のな車内。お礼にいただいた船玉の詰め合わせが甘く思い出されました。(八幡西区・69歳女性)  
\*小倉駅の売店で、「ダイキベーカー」の紹介がされている「雲のうえ」を発売し、慌てて冊子を探して行きました。市内のおやつ特集大満足です。まだ知らないお店があり、全部行きたくありません。  
(山口県下関市・30歳女性)  
\*初めて手にしてびっくりしました。北九州のお菓子を細かく説明して、知らないお菓子もたくさんあり、主人と一緒に巡ってみたいと思っています。表紙も好きです。本物のお菓子かなと思うほどで、何度も見えています。(小倉南区・70歳女性)  
\*機内で拝読し、あつという間に東京までの時間が過ぎました。飛行機は大の苦手な私ですが、「あつこの店はよく行くよ」「この店行ってみたい」「私と同じように大切にしたい店だ」と思っていること、自分分が雲のうえにしていることも忘れて釘付けになりました。  
(八幡西区・60歳女性)

\*甘いものの好きにはうれしい特集でした。息子の大好きな梅月のモダン焼きも載っていました。今後、一度進学や就職で市外へ出たものの、戻って来た人たちの話を読んでみたいですね。もうすぐその日がやってくる。9月に小倉へ行く予定です。  
(熊本県益城郡・83歳女性)  
\*実家で食べたランチパピロ、妹と長話をしながら食べた湖月堂のぜんざい。娘が初めて小倉に友人と行った時、お土産に買って帰ってきたくれたシロヤのおムレット。一つ一つが懐かしい思い出と共に思い出されます。(福岡県上郡・50歳女性)  
おたよりをお待ちしております。縦じ込みはがきをご利用ください。掲載させていただいた方には、小さな記念品を差し上げます。

## 次号予告

## 未来の技術者。



最新の発行情報は、北九州市にぎわいづくり懇話会ウェブサイト(<http://lets-city.jp/>)でお知らせしていきます。



\*バックナンバー  
「雲のうえ」22  
特集「北九州とんぼ」  
「雲のうえ」23  
特集「北九州製鉄所」

◎『雲のうえ』の送付業務を障害者自立支援ショップ「一丁目の元気」と連携して実施しております。送付希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、1~2冊/300円分、3~4冊/400円分、5~6冊/500円分の切手を同封してお送りください。送付は1名様1号あたり1冊とさせていただきます。付定数に達した場合は終了させていただきます。北九州市にぎわいづくり懇話会のHPで在庫状況を確認のうえ、お申し込みください。  
☎802-0002 北九州市小倉北区京町1-6-1  
☎093-383-6061  
一丁目の元気『雲のうえ』送付係



# 北九州都市圏1日フリー乗車券



北九州都市圏を運行する路線バスが一日乗り放題。  
旅日和にはバスで関門エリアへ。



## 販売窓口

北九州地区の西鉄各窓口(主な窓口: 小倉駅バスセンター・砂津定期券発売所)  
北九州市内路線バス車内 ※お買い求めの際は乗務員にお尋ねください。



**「にしてつバスナビ」  
がとっても便利です!**



- 乗車、降車バス停を簡単検索!
- バスの現在地が分かるので安心!
- 料金や乗換案内も検索可能!

ダウンロードは  
こちらから!



Download on the  
**App Store**

GET IT ON  
**Google Play**

お問い合わせ  
西鉄お客さまセンター  
**0570-00-1010**  
または092-303-3333(6:00~24:00年中無休)

さらに、夢を描こう。  
**Nishitetsu Group**